

庁議の概要

開催日 平成 20 年 4 月 7 日（月）

◎項 目

- 1 産業振興計画の策定について【政策企画部】
- 2 その他

◎内 容

1 産業振興計画の策定について【政策企画部】

政策企画部より、産業振興計画の策定について（案）に関する資料を配布のうえ概要説明があり、意見交換を行った。

【説明概要】

- ・ 産業振興計画は 20 年度の県の大きな柱であり、県として徹底して進めていかなければならない。
- ・ この産業振興計画では、産業別、地域別に県の今後の産業の成長戦略を示すことが主眼である。そのため所得の向上、雇用の創出といったところに視点をおいた、具体的な取り組みになる計画にしていく。
- ・ 個別のプロジェクトのつまみ食いだとか、一過性のイベントといったものがズラズラと並ばないように、成長戦略というものをキチンと考えて策定をしていく。また、その際には PDCA をきちんとしていく。
- ・ 産業関係の部局が策定の中心になるが、それ以外の部局も、行政としてあらゆる分野から積極的に支援をしていくということが基本的な考え方である。
- ・ まず、既存計画の再点検をしてもらう。それぞれの産業分野について、生産・加工・流通・販売、あるいは雇用創出といった様々な側面から、現在の取り組みがどうであるかを整理してもらい、それから抜けて落ちているもの、さらに取り組みが上げられるものがないかをチェックしてもらいたい。
- ・ 産業間の連携という視点も必要である。農業分野での取り組みが観光分野で活かさないか。1 次製品の加工で商工業の活性化、産業分野間で互いにもっと協力し合えるところ、あるいは、今まで取り組んでいないところで可能性のあるものはないかといったことを、分野を横断する形で検討してもらいたい。
- ・ 個別事業等の選定と支援措置の検討では、地域の玉だしの部分、市町村の重点施策、あるいは地域の様々な取り組み、それから外部から見た地域資源をビジネスとして考え、その際には、県として、新たな支援策、優先採択など様々なツールを活用して、玉出しされたものを伸ばしていくことを検討していく。
- ・ 他の重要施策との連携の検討ということでは、既存の産業技術をどのように応用していくか、あるいは知的財産として活用できるものはないか。それから、戦略的な企業誘致、新産業の創造といった取り組みとの連携も考えていく。併せて、高知の良さ、強みといったものをアピールして、高知の産業を全体として底上げしていくという意味でのブランド戦略を検討していくことになる。
- ・ 手順としては、「産業成長戦略」では、4 月中旬頃までに、市町村長から市町村の現状や目指す方向について意見をもらうとともに、庁内の関係部局には、今回の計画策定の視点から既存の計画の点検を行ってもらう。それから、関係部の副部長、各種団体の実務者、外部アドバイザーからなる産業成長戦略検討ワーキンググループを立ち上げる。また、各産業団体、市町村の代表者、それから関係部長にオブザーバーとして入ってもらった産業振興計画検討委員会を置き、この計画の中身をきちんと見ていってもらう。この他、委員会には、農・林・水、商工、観光の 5 つの専門部会を立ち上げ、それぞれ具体的項目の議論を深めていく。

- ・ 「地域アクションプラン」についても、市町村長から現状や目指すべき方向性について意見をもらったうえで、地域支援企画員、各部の出先機関、それと政策推進課、市町村の担当課の職員で構成する地域アクションプラン検討ワーキンググループを市町村単位ごとに立ち上げ、市町村における動き、玉だしを考え、具体的な事業展開についての検討を、来月の初めから8月の上旬まで行う。進めるうえでは、市町村ごとに住民座談会などを開催して、地域の住民からも意見をもらいアクションプランに反映させたい。最終的にはブロックごとに、市町村長、各団体の代表者、地域住民の代表、関係部長からなる地域アクションプラン策定委員会を設置し、ブロックとして一定のまとまりや連携といったことを考えて、ブロックとしての方向性をまとめていく。
- ・ 策定にあたっては、外部アドバイザーから、ビジネスプランとして成り立つかどうか、高知県として、今後取り組んでいってよいものかどうかといった意見をもらいながら進めていく。
- ・ 直接、産業に関らない部局も、インフラ整備といった様々な分野で影響が出てくる。必要に応じてワーキンググループに参加してもらうこともあるので、つねに、一体的に取り組んでいくという姿勢を持ってもらいたい。
- ・ 「産業成長戦略」、「地域アクションプラン」を、来年度の予算編成時期までに、一定の中間とりまとめをしたいというスケジュールのもとに、作業を進めていくことになる。

【主な意見】

- ・ 10月の中間とりまとめまでにどれぐらいのものをまとめ上げ、最終的なとりまとめはいつ頃なのか。
- 最終的なとりまとめは今年度中を考えている。来年度予算に反映できそうなものは、中間とりまとめまでにかっちりと整理をしたい。粗方の骨子は中間とりまとめでまとまると思うが、なお、議論がまとまらないといったものは、年度内で整理を行っていききたい。
- ・ 各種委員会の委員の人選は各部局で行わせてもらえるのか。また、全庁的な調整はあるのか。
- 専門部会の委員などにふさわしい方については、各部局に人選をお願いしたい。こちらでも市町村などにあって人選を行い、そういったものを整理したうえで、知事、副知事に相談のうえ最終的な人選をしていきたい。
- ・ 業界、民間を巻き込んだ計画とするためには、委員の人選が重要になってくるので留意して欲しい。(知事)
- ・ 計画の数値目標と計画の目標年次はいつか。
- これといった数値目標は決めていない。今回考えているのは、今の知事の任期までどこまで進められるかということで、この4年で完成するという計画ではない。この間に今の状況を上向きに変え、成長が始まって行くという形の計画にしていきたい。目標をどういう形で、いつまでに置くかといったことについては、作業が始まってから相談させてもらいたい。
- ・ 策定するにあたっての基本として、データ分析し現状をきちっと把握のうえ、課題をあぶり出しておかないと駄目で、このための準備をしないといけない。
- ・ 現状分析と課題の洗い出しは当然のことであり、このことが既存計画の洗い直しになると考える。(知事)
- ・ 市町村から出てきたいろいろな事業を、それぞれ個別に支援していくというイメージなのか。それとも、いいものが出てきた場合に、それを全県的に拡げて、県全体で政策として支援していくといったイメージのものなのか。
- ブロックごとに考えられているビジネスプランを成功させるためにどういった支援がいるのかということが基本であるが、たとえば、他のブロックでも通用するようなものであれば、それはそれとして県全体での支援策となっていくと考える。

- ・ 共通的なものを見出し、包括的な支援制度として共通するものを作って、それで支援していくというものも出てくると思うし、一方、個別的なもので、販売促進ツールの紹介、既存事業への優先採択といった個別に支援してくるものも出てくる。ケースバイケースだと思う。(知事)
 - ・ 雇用の創出を目的として考えていくのか。産業の振興、成長を考え、結果として雇用が生まれていくというものなのか。また、地域アクションプランは市町村ごとに検討し、それをブロックとしてまとめるというイメージのものなのか。
- 雇用を何人創出するためにそこで産業を興すといったものではなく、どうやって産業を成長させていくかを目的に、その結果として雇用が生まれるといった計画を立てたい。
- ・ 雇用の創出を事後目的化してしまい、県庁の業務をアウトソーシングして何名分の雇用が創出できるといった官製の雇用創出のものは、これには入ってこない。(知事)
 - ・ 少子化の観点から、若者が残る、若者が興味を持つ、就労したいという産業につながるような視点をもって考えていって欲しい。
 - ・ それぞれの部局には経営戦略があるが、それとの関連はどう考えていけばよいか。
- 今回のポイントは成長戦略である。従来からある各部局の経営戦略の中で、どういったものを成長させ、県経済の活性化にどう結びついていくかという整理を、今回改めてやってもらいたい。
- ・ 各部の経営戦略、若しくは既存計画がある中で、そのうち特に産業振興に関する部分について、現時点ではこういう状況であるが、産業別・地域別の産業振興計画を策定していく中で、我々の経営戦略も進化、発展させていくということである。(知事)

2 その他

- ・ 観光部より、高知ファイティングドッグス関係者の来庁（4月9日）の予定についてお知らせがあった。